

Object Storage Service

クイックスタート

クイックスタート

Alibaba Cloud OSS を利用する前に

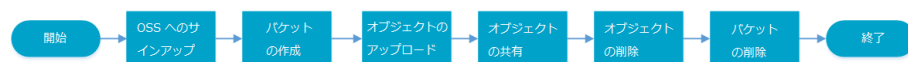
Alibaba Cloud OSS (Object Storage Service) は、ネットワークベースでデータアクセスサービスを提供します。OSS では、テキストファイル、イメージ、オーディオ、ビデオなどの非構造化データを、ネットワーク経由でオブジェクトとして保存したり呼び出したりすることができます。

基本概念

Alibaba Cloud OSS を使用する前に、OSS の基本概念を理解する必要があります。

- OSS では、データをバケットにオブジェクトとしてアップロードします。
- 1 つまたは複数のバケットを作成できます。また各バケットには 1 つまたは複数のオブジェクトを追加できます。
- バケットにオブジェクトをアップロードした後は、オブジェクトの共有やダウンロードに使用するオブジェクトアドレスを取得できます。
- バケットの属性やメタデータを変更することで、バケットやオブジェクトのアクセス権限を設定できます。
- Alibaba Cloud 開発ツールキットを使用したり、REST API をアプリケーションプログラムで呼び出したりすることで、基本的な OSS タスクと高度な OSS タスクのどちらも Alibaba Cloud コンソールで実行できます。詳細については、『Alibaba Cloud OSS 開発者ガイド』を参照してください。

このドキュメントでは、次の基本的タスクを Alibaba Cloud コンソールで実行する方法について説明します。



- OSS へのサインアップ
- バケットの作成
- オブジェクトのアップロード
- オブジェクトの共有
- オブジェクトの削除
- バケットの削除

OSS の機能と価格の詳細については、Alibaba Cloud OSS プロダクトのページを参照してください。

前提条件

OSS を使用する前に、Alibaba Cloud アカウントへの登録が完了していることを確認してください。
Alibaba Cloud アカウントがない場合は、OSS にサインアップする際にアカウント登録を求めるメッセージが表示されます。

手順

OSS プロダクト詳細ページを開きます。

[**今すぐ購入**] をクリックします。

OSS が有効化されたら、[**コンソール**] をクリックして、OSS コンソールインターフェイスにアクセスします。

また、ホームページから [コンソール] をクリックして、メインコンソールから [**Object Storage Service**] を選択することもできます。

Alibaba Cloud OSS を有効化したら、OSS コンソールを使用してオブジェクトのバケットを作成する必要があります。

手順

OSSコンソールに移動します。

左ペインの+ アイコンをクリックするか、**バケットを作成する**をクリックします。作成開くには、右側のペインに**バケットを作成する** ダイアログボックスを開きます。

[**バケット名**] テキストボックスに、バケット名を入力します。

注意: バケット名は命名規則に準拠している必要があり、Alibaba Cloud OSS 内の既存のバケット全体で一意にする必要があります。バケット名は作成後は変更できません。

[**リージョン**] ドロップダウンボックスで、バケットのデータセンターを選択します。

注意: リージョンは登録後は変更できません。ECS イントラネット経由で OSS にアクセスす

るには、お使いの ECS と同じリージョンを選択します。

ストレージクラス ドロップダウンボックスで、バケットのストレージクラスを選択します。

標準ストレージ: 頻繁なデータアクセスをサポートする高信頼性、高可用性、高性能のオブジェクトストレージサービスを提供します。

アクセス頻度が低い場合: 長期間保存され、頻繁にアクセスされないデータに適しています。その単価は標準型よりも低い。このストレージクラスでは、ファイルの最小保存期間が必要です。30日未満の間保存されたファイルを削除すると、料金が発生します。このストレージクラスでは、ファイルの請求可能な最小サイズが必要です。128 KB未満のファイルは128 KBの料金がかかり、データの取得により一定のコストが発生する可能性があります。

アーカイブストレージ: 長期保存が必要なアーカイブデータの保存に適しています（半年以上）。保管期間中にデータに頻繁にアクセスされず、読み取り可能な状態にデータを復元するのに1分かかることがあります。アーカイブデータ、医用画像、科学資料、長期保存用のビデオフッテージの保存に適しています。

ACLドロップダウンボックスで、バケットのアクセス許可オプションを選択します。

非公開: バケットの所有者と許可されたユーザーだけが、バケット内のオブジェクトに対する読み込み、書き込み、および削除操作を実行できます。他のユーザーは、バケット内のオブジェクトにアクセスすることはできません。

公開読み取り: バケットの所有者と許可されたユーザーのみが、バケット内のオブジェクトに対して書き込み操作と削除操作を実行できます。誰でも（匿名アクセスを含む）バケット内のオブジェクトを読み取ることができます。

- **公開読み書き:** 誰でも（匿名アクセスを含む）、バケット内のオブジェクトを読み書きし、削除することができます。そのような操作によって発生した手数料は、バケツの所有者が負担します。この許可は慎重に使用してください。

OKをクリックします。バケットは正常に作成されました。

バケットを作成した後、次のいずれかの方法でオブジェクトをアップロードできます。

OSSコンソールを使用して5 GB未満のファイルをアップロードします。

SDKまたはAPIを使用して5 GBを超えるファイルをアップロードします。詳細は再開可能なアップ

ロードを参照してください。

手順

OSSコンソールに移動します。**[概要]** ページがデフォルトで表示されます。

ターゲットの **[バケット名]** をクリックして、**[オブジェクト概要]** ページを開きます。

[オブジェクト管理] をクリックして、**[オブジェクト管理]** ページを開きます。

[アップロード] をクリックします。

注意: 指定したフォルダまたはデフォルトのフォルダにファイルをアップロードできます。**アップロード** をクリックする前に **フォルダの作成** をクリックすると、指定したフォルダにファイルをアップロードできます。**アップロード** を直接クリックすると、ファイルがバケットの直下にアップロードされます。

バケットにオブジェクトをアップロードした後、ファイルの共有やダウンロードに使用するファイルアドレスを取得できます。

操作手順

[OSSコンソール] に移動します。

対象バケット名をクリックすると、ターゲットバケットが開きます。

[オブジェクト管理] をクリックします。

対象ファイルの名前をクリックします。

[プレビュー] ページが表示されます。

オブジェクトURL: ファイルのダウンロードに使用します。

オブジェクトタイプ: ファイルを検索したり、画像ファイルに透かしを入れるために使用します。

[URLの取得]をクリックして、ファイルの参照やダウンロードを行う必要があるユーザーに提供します。

バケットのACLアクセス制御が[非公開]に設定されている場合は、オブジェクト URL の取得時にリンク有効期間を設定する必要があります。

注意: URL署名のリンク有効期間は、NTPに基づいて計算されます。有効期間内にファイルへのアクセスに使用できるビジターには、このリンクを付けることができます。バケットが[非公開]に設定している場合、作成されたアドレスは URLへの署名の追加によって生成されます。

アップロードしたファイルを保存する必要がない場合は、ファイルを削除して追加料金を避けてください。OSSコンソールでは、1つまたは複数のファイルを一括して削除できます。

注意: コンソールでは、最大で**1,000個**のファイルを一括して削除できます。柔軟な方法でファイルを削除したり、一括してファイルを削除したい場合は、開発者ガイドの**オブジェクトの削除**を参照してください。

手順

[OSS console]にログオンします。

左側のバケットリストで、ターゲットバケット名前をクリックして、バケット概要ページを開きます。

ファイルタブをクリックします。

1つまたは複数のファイルを選択し、**削除**をクリックすると、**ファイルの削除** ダイアログボックスが表示されます。

OKをクリックします。

不要になったバケットは、これ以上料金がかからないように削除します。

前提条件

バケットを削除する前に、マルチパートのアップロードが不完全なために発生したファイルの破損を含め、

バケット内のすべてのファイルが消去されていることを確認してください。そうしないと、バケットは削除できません。

操作手順

OSSコンソールに移動します。

ターゲットバケットの **[削除]** をクリックします。

[確認] をクリックして、バケットを削除します。

注：削除後はバケットを復元できません。